

◆ 日時 2019年6月23日(日)

\*プログラムの内容は予告なく変更になる可能性があります。

11:30~13:00 <b>顔収集ワークショップ</b> 会場内にて、顔の撮影・ご応募をいただけます。	
<b>[第一部]</b> 12:30~ 受付開始 *事前申込制	<b>13:00~14:30 プレゼンテーション</b> 登壇者：原島 博、宮脇周作、目 「まさゆめ」について目から説明したのち、専門性を有するゲストより2020年 東京の空に浮かべるべき「顔」を提案します。
	<b>14:30~15:00 クロストーク</b> 登壇者：原島 博、宮脇周作、目 ゲストの提案を踏まえて、目とゲストが[第二部]につづく議論を深めていきます。
	15:00~16:00 <b>顔収集ワークショップ</b> 会場内にて、顔の撮影・ご応募をいただけます。
<b>[第二部]</b> 15:30~ 受付開始 *事前申込制	<b>16:00~19:00 ディスカッション</b> 目、ゲスト、来場者、オンライン参加者で、「2020年 東京の空に浮かべるべき顔」について徹底的に議論します。

◆ゲスト プロフィール

**原島 博** (はらしま ひろし)

1945年 東京生まれ。2009年に東京大学を定年退職。大学では大学院情報学環と工学部に属し、人と人とのコミュニケーションを技術的に支援することに興味を持ってきた。その一つとして人の顔にも興味を持ち、1995年に「日本顔学会」を発起人代表として設立し、「顔学」の構築と体系化にも尽力。定年後は、女子美術大学(芸術学部)、明治大学(総合数理学部)、立命館大学(衣笠総合研究機構、文学研究科)の客員教授などを務め、2015年より東京大学に戻り、現在は特任教授として全学共通の大学院教養講義を担当。

**宮脇周作** (みやわき しゅうさく)

法廷画家。1980年福岡県生まれ。成安造形大学造形学部卒業。画家として各所のグループ展・個展で油彩作品を発表し、アートスクールの講師を務める傍ら、2009年より日本テレビ専属として法廷画の制作を開始。被告人の顔が入廷時の5秒しか見られないなどスピードが求められるなかで、被告人や裁判官、裁判員、証人などの顔を瞬時に捉え、これまで1000枚近くの被告人の肖像を描いてきた。手がけた主な裁判に、陸山会事件の小沢一郎、オウム逃亡犯一連裁判、ASKAや清原和博の覚醒剤事件などがある。

◆目/[mé] プロフィール

アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。第28回(2017年度)タカシマヤ文化基金受賞。2019年は、個展「非常にはっきりとわからない」(千葉市美術館、11月2日[土]~12月28日[土])にて新作を発表予定。



## ◆当面のスケジュール

2019年3月26日～6月 顔募集

: 2020年 東京の空に浮かべる顔の候補を、世界中から大募集します。



2019年5～6月 顔収集ワークショップ

: 目のメンバーと共に街に繰り出し、顔候補として応募してくれる顔を探索・収集するワークショップを都内各所で行っています。開催日程・会場等については、まさゆめ公式ウェブサイトをご覧ください。

**2019年6月23日 顔会議**

**「2020年夏の東京の空に、どのような顔を空に浮かべるべきか」という会議を、誰もが参加できるオープンな形で開催します。**



2019年7月～ 顔の決定・制作

: 顔会議でのディスカッション内容を踏まえ、顔を決定し、巨大な顔を制作します。

※顔浮上までの進捗状況や企画者の思いなどについて、まさゆめ公式ウェブサイトや様々な取組を通じて、共有していきます。



顔浮上 (2020年夏)

: 都内のどこかに巨大な顔を浮かべます。